

国勢調査マイクロデータを用いたわが国の外国人居住者の世帯属性と  
就業状況との関連性に関する実証研究

The Relationship between Household Attributes and Employment Status  
for Foreign Residents in Japan - An Empirical Study Using Microdata  
from the Population Census

伊藤 伸介  
統計研究研修所客員教授  
中央大学経済学部教授

ITO Shinsuke  
SRTI Guest Professor  
Professor, Faculty of Economics, CHUO University

令和 2 年 5 月  
May 2020

総務省統計研究研修所  
Statistical Research and Training Institute (SRTI)  
Ministry of Internal Affairs and Communications

受理日：令和 2 年 4 月 17 日

本ペーパーは、総務省統計研究研修所の客員教授が、その責任において行った統計研究の成果を取りまとめたものであり、その内容については、総務省統計局又は統計研究研修所の見解を表したものではない。本ペーパーの内容については、執筆者に問い合わせ願いたい。

本研究では、統計法（平成 19 年法律第 53 号）第 32 条の規定に基づき、国勢調査に係る調査票情報を使用した。

# 国勢調査マイクロデータを用いたわが国の外国人居住者の世帯属性と 就業状況との関連性に関する実証研究

伊藤 伸介

## 概要

近年の少子高齢化の進展に伴い、今後わが国の総人口が減少することが予想されている。将来的に見れば、それは、生産年齢人口の減少、とりわけ若年層における労働力人口のさらなる減少をもたらすことから、労働供給側だけでなく、労働需要側においてもわが国の社会経済の諸側面に今後大きな影響を与えることが考えられる。こうした労働市場の変化に対応するために、外国人の就業者に対する社会的関心が高まっている。本稿は、外国人労働力の近年の動向を公表されている統計データで明らかにした上で、わが国の平成22年国勢調査の個票データを用いて、外国人労働力における就業状況と世帯属性との関連性について実証分析を行った。

本稿の分析によれば、年齢、学歴、居住年数、世帯類型といった属性をコントロールした場合でも、国籍から見た外国人労働力の就業特性の相違を明らかにすることができた。さらに国勢調査の個票データを用いた実証分析からは、国籍によって、就業状態、職業選択および労働力移動における異質性が見られることが明らかになった。これらの結果は、個々人がおかれた社会経済的状况や世帯属性によって、わが国に居住する外国人の就業行動や職業選択が異なる可能性を示唆している。

キーワード：外国人労働力、国勢調査、国籍、世帯類型、職業選択、就業移動

# The Relationship between Household Attributes and Employment Status for Foreign Residents in Japan - An Empirical Study Using Microdata from the Population Census

ITO Shinsuke

## Abstract

The ongoing ageing of Japan's society is predicted to result in a decrease in total population, which is expected to result in a decline in working age population and especially young workers. This trend is expected to have significant societal and economic implications for Japan, particularly when it comes to labour supply and labour demand. To respond to the changes in the labour market, the Japanese government is considering an increase in the number of foreign workers. This paper examines recent movements of foreign labour based on published statistical data and conducts an empirical analysis of the relationship between working behavior of foreign residents and their household attributes based on microdata from the "Population Census" in the 2010.

The results of this paper show differences in the characteristics of foreign workers based on their nationality when controlled for such attributes as age, education attainment, length of residency in Japan and household type. In addition, the results of empirical research using individual data from the Population Census show a heterogeneity in employment status, choice of occupation and labour mobility. These results indicate that work-related behaviors and choice of occupation among foreign residents potentially differs based on their socio-economic situation and household attributes.

Keywords : Foreign Labour Force, Population Census, Nationality, Household Type, Choice of Occupation, Labour Mobility

## 1. はじめに

近年のわが国における若年の無業者数については減少傾向が顕著に見られる。例えば、総務省統計局「労働力調査」に基づいた厚生労働省「平成 30 年版 厚生労働白書」によれば、若年無業者<sup>1</sup>の数は 1993 年に 40 万人程度であったが、1980 年代後半のバブル景気後の長期停滞に伴い、若年無業者は傾向的に増大し、2002 年には 64 万人に増加した。その後、若年無業者は 2002 年～2012 年に至るまで 60 万人前後で推移していたが、2013 年以降、若年無業者数は低下しており、2017 年における若年無業者数は 54 万人となっている。

2015 年の国勢調査の集計結果によれば、わが国の 15～39 歳の人口総数は、33,993,162 人と算出されている。2010 年における国勢調査の結果数値を見ると、15～39 歳の人口総数は、37,911,337 人であることから、5 年間で約 400 万人の若年層が減少していることを確認することができる。こうした若年層の人口の変化が、若年における就業状況にさらなる影響を及ぼす可能性も否定できないと思われる。

少子高齢化の進展に伴い、今後わが国の総人口が減少傾向にあることが指摘され、社会的関心が高まっているが、将来的に見れば、中長期的には 15～64 歳の生産年齢人口の減少、とりわけ若年層における労働力人口のさらなる減少をもたらすことから、労働供給面だけでなく、労働需要面においてもわが国の社会経済に今後大きな影響を与えることが考えられる。こうした労働供給側の変化に対応するために、就業していない女性や高齢者に対して、労働力としてのさらなる可能性を探ることについて社会的な関心が高まっているが、それに加えて、外国人の就業者にも注目が集まっている。

佐藤・伊藤（2016）では、国勢調査の個票データをもとに外国人労働力の就業特性についてマイクロデータ分析を行った。外国人労働力については、国勢調査でのみ捕捉されている調査事項である国籍を用いて、外国人の労働力に関して、個々の社会人口的属性と地域特性の両面からの実証分析を行った。本分析結果によれば、年齢、学歴、居住年数といった変数をコントロールした場合でも、国籍から見た外国人労働力の就業特性の相違を明らかにすることができた。

本稿は、これらの研究成果を踏まえながら、わが国で 5 年に 1 回実施されている国勢調査の個票データを用いて、世帯属性から見た外国人の就業状況の実態を捉えてみたい。具体的には、本稿では、国勢調査でのみ捕捉されている調査事項である国籍を用いて、外国人の労働力に関して、個々の社会人口的属性と世帯属性、さらには地域特性の観点からのマイクロデータ分析を行う。そして、本研究では、年齢、学歴、居住年数、世帯人員、世帯類型といった変数をコントロールした場合でも、国籍ごとの外国人の就業特性や労働力移動の実態を明らかにすることを指向している。

---

<sup>1</sup> 『厚生労働白書』における「若年無業者」の定義は、「15～34 歳で、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者」となっている。

## 2. わが国における外国人労働力の現状<sup>2</sup>

最初に、わが国における外国人労働力の現状について見ていくことにする。厚生労働省による「外国人雇用状況」の届出状況によれば、外国人労働者数は、2012年に前年比マイナスの伸び率になったものの全体的に増加傾向にあることが確認でき、2015年以降、外国人労働者数の伸び率は10%を超えている。そして、2019年10月末における外国人労働者数は、1,658,804人となっている。この数値は、事業主による外国人労働者の届出が義務化され、外国人雇用状況の届出に基づいて把握可能になった2008年以降では最大となっている。

つぎに、図1は、厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況に基づいて算定されたわが国における在留資格別の外国人労働者数の動向を示したものである。また、在留資格別に外国人労働者数を見た場合でも、全般的には増加傾向にあることが確認できる。とくに、身分に基づく在留資格によって就業している外国人労働者数の比率が最も高く、2019年においては全体の32.1%に達しているが、2015年においては、身分に基づく在留資格に基づいて就業している外国人労働者数の比率は40.4%であって、約8%減少している。また、専門的・技術的分野の在留資格を持って就業している外国人労働者数は、2019年では全体の19.8%となっている。これは、2015年における18.4%と比較すると、若干増加していると言える。それに対して、特定活動か技能実習のいずれかの在留資格を持って就業している外国人労働者数が、425,053人となっている。これは、2019年における全体の外国人労働者数の25.6%を占めているだけでなく、2015年における19.9%という数値と比べても、5%ポイント以上も比率が高くなっている。このことは、近年の労働力不足の現状に対して、「出入国管理及び難民認定法」において「高度な専門的知識を必要とする特定の分野に関する研究」に該当する「特定活動」の拡張、および「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律（平成28年法律第89号）（平成29年11月1日施行）（技能実習法）」に基づく新たな技能実習制度の展開を反映した結果と見ることができ、興味深い動きだと言えよう。

さらに、図2は、法務省の「出入国管理統計」に基づいて、専門的・技術的分野の在留資格を持つ入国外国人数とその変化率に関して、捕捉可能な1990年～2018年まで年次ベースで示したものである。図2により、入国外国人数の実数は概ね増加傾向になっていることがわかるが、2018年の入国外国人数は、776,774人となっている。また、入国外国人数は、2015年以降、急激に増加していることが明らかになっている。入国外国人数の変化率を見ても、2015年以降の比率は10%を超えている。本図からは、グローバル化の進展で、専門的・技術的な知識を有する外国人労働者のわが国への移動が近年活発になっている動

---

<sup>2</sup> 本節は、伊藤(2016)に大幅に加筆・修正を行ったものである。

向を見て取ることができる。

また、入国外国人の変化率から明らかになっている特徴としては、バブル崩壊直後だけでなく、リーマンショックや東日本大震災の直後にもその変化率がマイナスになっていることが確認される。このことは、専門的・技術的分野の在留資格を持つ入国外国人の動向が、景気変動的な側面によっても影響を受ける可能性があることを示唆している。

わが国の総人口数を把握する全数調査である国勢調査においては、調査事項として国籍が含まれるだけでなく、9月24日～30日までの1週間に仕事をしたかどうか、アクチュアルな就業状況を全数調査によって把握することが可能である。表1は、2000年～2015年における15歳以上の外国人就業者数の推移を見たものである。2015年の外国人就業者数は、807,996人であるが、厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況における2015年10月末の外国人労働者数は907,896人となっている。同様に、2010年の国勢調査から把握される外国人就業者数は、759,363人であるが、厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況における2010年10月末の外国人労働者数は649,982人である。このことから、国勢調査の結果数値と出入国管理統計の数値との間に10万人程度の差異があることが確認される。これらについては、国勢調査と出入国管理統計における外国人労働力に関する定義の違いを指摘することができる。

表1を見ると、中国国籍の外国人就業者が大きく増大していることが注目される。2010年には、中国国籍の外国人就業者が韓国・朝鮮国籍のそれを上回り、国籍から見た場合の最大の外国人就業者となっている。また、フィリピンやタイの国籍を持つ外国人就業者も傾向的に増加している。アメリカ国籍やイギリス国籍の外国人就業者については、2000年～2015年にかけて、大きな増減は見られない。それに対して、ブラジル国籍やペルー国籍といった南米諸国からの外国人就業者数は、2000年～2015年の15年間で大きく減少していることがわかる。このことから、わが国における外国人就業者の流入が、南米諸国からアジア諸国にシフトしつつある現状を把握することができる。

### 3. 外国人の就業と職業選択に関する実証分析<sup>3</sup>

先述のとおり、少子高齢化の進展に伴うわが国の労働力の将来的な減少の可能性に対して、外国人労働力の必要性が注目されてきた。そこで、外国人の就業特性を明らかにするために、様々な側面から外国人就業者に関する実証研究が行われてきた。こうした先行研究として、本稿では、経済的な側面から見た外国人労働力に関するマイクロデータ分析を行った中村他(2009)、社会階層論的な観点から外国人の就業特性を明らかにした是川(2012)等を指摘しておく。

---

<sup>3</sup> 本節の一部は、佐藤・伊藤(2016)の中で筆者が担当した部分について、大幅に加筆・修正を行ったものである。

前節で、わが国で外国人就業者が増加傾向にあることが明らかになった。それを踏まえ、本節では、わが国における外国人の就業と職業選択について、マイクロデータ分析を行う<sup>4</sup>。外国人の就業行動および職業選択は、その居住する環境によっても左右されると考えられる。このことから、本研究では、2010年の国勢調査の個票データを用いて、外国人の就業行動・職業選択と社会経済的属性との関連性について実証分析を行う。

本研究における最初の分析対象は、15～39歳で在学中の者(留学生)を除いた年齢階層である。本分析においては、東京都に居住する外国人に焦点を当て、外国人の就業行動と職業選択について、その特徴を見ていくことにする。

本分析では、つぎの3つのモデルを設定し、二項ロジットモデル分析を行った。

#### モデル1

就業状態 = f(年齢ダミー、学歴ダミー、国籍ダミー、居住年数ダミー、東京23区ダミー)

#### モデル2

就業形態 = f(年齢ダミー、学歴ダミー、国籍ダミー、居住年数ダミー、東京23区ダミー)

#### モデル3

職業選択 = f(年齢ダミー、学歴ダミー、国籍ダミー、居住年数ダミー、東京23区ダミー)

モデル1からモデル3における説明変数のダミー変数は以下のとおりである。

年齢ダミー：15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳(リファレンス・グループは15～19歳)

学歴ダミー：小学・中学卒、高校・旧制中卒、短大・高専卒、大学・大学院卒(リファレンス・グループは小学・中学卒)

国籍ダミー：中国、韓国・朝鮮、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、イギリス、アメリカ、ブラジル、ペルー(リファレンス・グループは中国)

居住年数ダミー：1年未満、1～5年未満、5～10年未満、10～20年未満、20年以上(リファレンス・グループは1年未満)

---

<sup>4</sup> 佐藤・伊藤(2016)にも記載されているが、国勢調査の個票データを用いて個々人の行動特性に関するマイクロモデルを推定することによって、わが国のマイクロシミュレーションモデルの構築に向けて、推定されたマイクロモデルを利用する可能性が期待できる。具体的には、本分析の成果は、マイクロシミュレーションモデルの作成において外国人の就業行動に関するブロックモデル化に寄与しうると考えている。なお、マイクロシミュレーションモデルの方法的な特徴については伊藤(2002)、伊藤(2013)を参照されたい。また、わが国の国民生活基礎調査の個票データを用いたマイクロシミュレーションモデルの構築およびマイクロシミュレーションモデルを用いたわが国における将来人口の推計や人口構造に関する予測については、稲垣(2007)を参照。

東京 23 区ダミー(東京 23 区、東京 23 区以外)(リファレンス・グループは東京 23 区以外)

本分析では、就業状態(就業=1、非就業<sup>5</sup>=0)を被説明変数とするモデル 1、就業形態(正規=1、非正規=0)を被説明変数とするモデル 2、および、職業選択<sup>6</sup>(ホワイトカラー=1、ブルーカラー=0)を被説明変数とするモデル 3 を用いてモデル分析を行う。また、説明変数として年齢、学歴、国籍、居住年数と地域を設定している。国籍については、韓国・朝鮮、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、イギリス、アメリカ、ブラジルとペルーがダミー変数としてモデルに含まれる。地域ダミーとして、東京 23 区に居住しているか否かのダミー変数(東京 23 区=1,それ以外の地域=0)が設定されている。なお、本分析においては、国籍ダミーと東京 23 区ダミーの交差項も説明変数に含めたモデル分析も行っているが、以下の分析結果では、国籍ダミーと東京 23 区ダミーの交差項を含まない結果のみを示すこととする。

表 2-1 と表 2-2 はそれぞれ、被説明変数が就業状態である男女別のモデル 1 の結果を示している。国籍ダミーを見ると、男性については全般的にプラスに有意になっているが、ベトナム、インドネシアといった東南アジア出身の外国人における回帰係数の値が大きくなっているのが興味深い。それに対して、女性の場合、フィリピン、タイ、インドネシアといった東南アジア出身の外国人はマイナスに有意となっており、男性と異なる結果が見られる。なお、東京 23 区ダミーについては、男女のいずれもプラスに有意になっている。このことから、東京 23 区内のほうが職探しをしやすく、東京 23 区外と比べて、外国人がより就業しやすい環境にある可能性が指摘できる。このように、東京において常住する地域が外国人にとっての就業に対して相対的に大きな影響をもたらすことが明らかになった。なお、女性の場合、居住年数が長いほど就業する傾向にあることもわかる。

つぎに、表 3-1 と表 3-2 はそれぞれ、被説明変数が就業形態である男女別のモデル 2 の結果を示している。モデル 2 の結果を見ると、男女のいずれも学歴が高くなるほど、回帰係数が大きくなっていることから、外国人の場合においても、高学歴ほど正規の雇用者として就業する傾向にあることが確認できる。一方、国籍を見ると、フィリピンについては、男女いずれも非正規の雇用者で就業する傾向にあることがわかる。さらには、女性については、ベトナム、タイ、インドネシアの国籍を持つ女性においても、非正規就業する傾向

---

<sup>5</sup> 本研究における「非就業」については、完全失業者あるいは非労働力人口のいずれかに含まれる者が該当する。

<sup>6</sup> 本研究では、職業大分類を用いて、ホワイトカラーとブルーカラーを以下のように定義している。

ホワイトカラー：管理的職業従事者、専門的・技術的職業従事者、事務従事者

ブルーカラー：販売従事者、サービス職業従事者、保安職業従事者、農林職業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・機械運転従事者、建設・採掘従事者、運搬・清掃・包装等従事者

が見られるのが興味深い。このことから、女性については、アジア圏の国籍である外国人の就業の非正規化を見て取ることができる。なお、女性については、居住年数が長いほど、正規雇用者として就業する傾向にあることもわかった。

つぎに、表 4-1 と表 4-2 はそれぞれ、被説明変数が職業選択である男女別のモデル 3 の結果を示している。モデル 3 の結果を見ると、学歴が高くなるほど、回帰係数が大きいことから、高学歴の外国人のほうが、管理職、専門職、事務職のようなホワイトカラーの職業に就く傾向にあることが確認できる。一方、国籍に着目すると、イギリスやアメリカにおける係数値がプラスに有意になっているのに対して、フィリピン、インドネシア、ペルーといった東南アジアや南米の国籍については、マイナスに有意な結果が得られている。このことは、欧米の外国人がホワイトカラーの職業を選択するのに対して、東南アジアや南米の外国人はブルーカラーの職業に就く傾向にあることを示している。このように、東南アジアおよび南米の外国人では、ヨーロッパや北米の外国人と比べて、職種が大きく異なることが確認される。なお、東京 23 区ダミーを見ると、女性の場合、マイナスに有意な結果が得られている。このことから、東京 23 区内に居住する女性の外国人は、ブルーカラーの職に従事する傾向にあることを見て取ることができる。

つぎに、日本国内に滞在して 5 年以内の外国人を対象に、専門管理職(管理的職業従事者と専門的・技術的職業従事者)の職業選択に関する二項ロジットモデル分析を行った(モデル 4)。本モデルの対象は、5 年以内に地域間移動を行っている外国人で、15~39 歳の年齢階層と 40~59 歳の年齢層である。モデル 4 における被説明変数は専門管理職か否かである。また、説明変数におけるダミー変数は、以下のように設定される。なお、地域については、モデル分析における結果の安定性を考慮し、地域区分を北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国と九州・沖縄(以下「九州」と略称)の 8 地域とし、それぞれ、ダミー変数を設定した。

#### モデル 4

専門管理職か否か = f(性別ダミー、年齢ダミー、居住年数ダミー、日本人親族がいる世帯か否か、世帯人員、学歴ダミー、地域ダミー、国籍ダミー)

性別ダミー：男性、女性(リファレンス・グループは女性)

年齢ダミー(15~39 歳が対象)：15~19 歳、20~24 歳、25~29 歳、30~34 歳、35~39 歳(リファレンスグループは 15~19 歳)

年齢ダミー(40~59 歳が対象)：40~44 歳、45~49 歳、50~54 歳、55~59 歳(リファレンスグループは 40~44 歳)

居住年数ダミー：1 年未満、1~5 年未満(リファレンス・グループは、1 年未満)

日本人親族がいる世帯か否か：日本人親族がいる世帯、日本人親族がいない世帯(リファレンス・グループは、日本人親族がいない)

世帯人員(本モデルでは量的変数として説明変数の1つに設定される)

学歴ダミー：小学・中学卒、高校・旧制中卒、短大・高専卒、大学・大学院卒(リファレンス・グループは小学・中学卒)

地域ダミー：北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州(リファレンス・グループは関東)

国籍ダミー：中国、韓国・朝鮮、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、イギリス、アメリカ、ブラジル、ペルー(リファレンス・グループは中国)

表 5-1 と表 5-2 はそれぞれ、5 年以内に全国のどこかの居住地から地域間移動をしている 15～39 歳の外国人および 5 年以内に関東地域から移動している 15～39 歳の外国人に関する分析結果を示したものである。また、表 6-1 と表 6-2 はそれぞれ、5 年以内に全国のどこかの居住地から地域間移動をしている 40～59 歳の外国人および 5 年以内に関東地域から移動している 40～59 歳の外国人に関する分析結果を示したものである。15～39 歳の年齢階層の場合、全国で見ると、居住年数が長いほうが、非専門管理職に従事する傾向にあることがわかる。それに対して、40～59 歳の年齢階層については、関東地域から移動した外国人に関しては、居住年数が長いほど、専門管理職に従事する傾向にあることが確認できる。また、関東に居住していた外国人が、東北や九州の地域に移動することによって、より専門管理職に従事しやすいことに関する有意な結果も本分析から確認できる。さらに、日本人親族がいる世帯や世帯人員が多い世帯に属する外国人は、専門管理職に従事しにくい傾向にあることもわかった。40～59 歳の中高年の外国人においても、世帯人員が多い世帯に属する外国人は、非専門管理職への従事について有意な関連性を有することが、本分析から明らかになっている。

#### 4. 外国人労働力の移動の分析

本節では、外国人労働力における地域間の移動状況について分析を行う。本分析では、5 年以内の特定の地域ブロックへの移動の有無が被説明変数として用いられる。地域ブロックについては、これまでの分析における地域区分と同様に、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州(沖縄を含む)の 8 区分となっている。また、15～39 歳の年齢層と 40～59 歳までの年齢層の 2 つのサブグループを対象に、説明変数として性別、年齢、居住年数、日本人親族がいる世帯か否か、学歴、国籍と世帯類型についてそれぞれダミー変数が設定されている。国籍については、韓国・朝鮮、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、イギリス、アメリカ、ブラジルとペルーがダミー変数としてモデルに含まれる。モデル 5 についても二項ロジットモデルによるモデルの推定を行った。

モデル5 特定の地域ブロックへの移動の有無 $=f$ (性別ダミー, 年齢ダミー, 居住年数ダミー, 日本人親族がいる世帯か否か, 世帯類型ダミー, 学歴ダミー, 国籍ダミー)

モデル5において用いられるダミー変数のカテゴリーは、以下のとおりである。

性別ダミー：男性、女性(リファレンス・グループは女性)

年齢ダミー(15～39歳の場合)：15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳(リファレンス・グループは15～19歳)

年齢ダミー(40～59歳の場合)：40～44歳、45～49歳、50～54歳、55～59歳(リファレンス・グループは40～44歳)

居住年数ダミー：1年未満、1～5年未満(リファレンス・グループは1年未満)

日本人親族がいる世帯か否か：日本人親族がいる世帯、日本人親族がいない世帯(リファレンス・グループは、日本人親族がいない)

世帯類型ダミー：単身世帯、夫婦のみの世帯、夫婦と子供の世帯、片親と子供の世帯、夫婦と親の世帯、夫婦と子供と親の世帯、その他の世帯(リファレンス・グループは単身世帯)

学歴ダミー：小学・中学卒、高校・旧制中卒、短大・高専卒、大学・大学院卒(リファレンス・グループは小学・中学卒)

国籍ダミー：中国、韓国・朝鮮、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、イギリス、アメリカ、ブラジル、ペルー(リファレンス・グループは中国)

表7-1～表7-8と表8-1～表8-8はそれぞれ、15～39歳の年齢階層と、40～59歳の年齢階層に関して、5年前の居住地が国内にあり、5年以内に居住地が変わった者を対象に、被説明変数を同じ地域ブロックへの移動の有無とした場合のモデル5の結果を示している。本分析結果から、世帯類型といった世帯属性をコントロールしても、学歴や国籍によって、地域の移動状況が異なることが興味深い。例えば、関東地域の結果を見ると、学歴が高いほど、関東以外の地域に移動していることがわかる。つぎに、国籍ダミーを見ると、関東地域についてはフィリピン国籍とブラジル国籍の外国人についてはマイナスに有意になっていることが確認される。このことは、フィリピン国籍とブラジル国籍の外国人が関東以外の地域により移動する傾向にあることを示唆している。それに対して、中部地域を見ていくと、フィリピン国籍とブラジル国籍の外国人に関しては、プラスに有意な結果が得られていることが確認された。このことは、地域の産業特性がその外国人の労働力移動に影響を与えた結果を示していると言える。その一方で、国籍によって、同一地域に留まるか、あるいは他地域に移動するかの選択の方向が異なっていることは、国籍によって地域ごとの労働需要の違いを反映しており、興味深い結果と言える。また、日本人親族

がいる外国人は同一地域に移動する傾向にあることも本分析から確認される。さらに、関東、中部、近畿と九州といった多くの地域で配偶者と子供が同居している世帯のほうが、単身世帯と比較して同一地域に移動しやすいことも明らかになった。

本研究では、5年前の居住地が海外にあり、5年以内に来日して国内に居住している外国人を対象に、海外からの特定の地域ブロックへの移動の有無を被説明変数とし、モデル5と同様のモデルに基づいて年齢のサブグループごとに実証分析も行った。本分析のために、以下のモデル5'が設定された。

モデル5' 海外から特定の地域ブロックへの移動の有無 =  $f$ (性別ダミー, 年齢ダミー, 居住年数ダミー, 日本人親族がいる世帯か否か, 世帯類型ダミー, 学歴ダミー, 国籍ダミー)

モデル5'において用いられるダミー変数のカテゴリーは、以下のとおりである。

性別ダミー：男性、女性(リファレンス・グループは女性)

年齢ダミー(15～39歳の場合)：15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳(リファレンス・グループは15～19歳)

年齢ダミー(40～59歳の場合)：40～44歳、45～49歳、50～54歳、55～59歳(リファレンス・グループは40～44歳)

居住年数ダミー：1年未満、1～5年未満(リファレンス・グループは1年未満)

日本人親族がいる世帯か否か：日本人親族がいる世帯、日本人親族がいない世帯(リファレンス・グループは、日本人親族がいない)

世帯類型ダミー：単身世帯、夫婦のみの世帯、夫婦と子供の世帯、片親と子供の世帯、夫婦と親の世帯、夫婦と子供と親の世帯、その他の世帯(リファレンス・グループは単身世帯)

学歴ダミー：小学・中学卒、高校・旧制中卒、短大・高専卒、大学・大学院卒(リファレンス・グループは小学・中学卒)

国籍ダミー：中国、韓国・朝鮮、フィリピン、タイ、インドネシア、ベトナム、イギリス、アメリカ、ブラジル、ペルー(リファレンス・グループは中国)

15～39歳および40～59歳の年齢層におけるモデル5'の分析結果はそれぞれ、表9-1～表9-8と表10-1～表10-8に示されている。本分析結果によれば、例えば、海外から関東地域への移動の有無を見た場合、15～39歳の年齢階層および40～59歳の年齢階層のいずれにおいても、年齢が上がるにしたがって、関東地域に居住する可能性が高くなる傾向にあることが見て取れる。また、家族類型を見ると、単身世帯と比較して、配偶者や子供あるいは親と同居している世帯のほうが関東に居住する傾向が高いことも確認できる。国籍

を見ると、韓国・朝鮮とタイについては関東に居住するが、それ以外の国籍については、関東に居住しない傾向にあることがわかる。

## 5. おわりに

本稿では、わが国の外国人における就業特性を明らかにするために、2010年の国勢調査の個票データを用いて、外国人の就業状況と世帯属性との関連性について実証分析を行った。

本稿で最初に見たように、外国人就業者は近年急増しており、専門的・技術的分野の在留資格を持つ外国人は、景気変動の要因を考慮したとしても増加傾向にあることが明らかになっている。こうした外国人労働力を対象に、国勢調査でのみ捕捉されている国籍、および就業や職業といった属性を用いて、外国人の労働力に関して個々人の社会人口的属性、世帯属性と地域特性の視点に立ってマイクロデータ分析を行った。本分析から、国籍から見た外国人労働力の就業特性の相違を明らかにすることができた。また、本分析においては、国勢調査の個票データを用いることによって、年齢、学歴、居住年数、世帯人員といった属性をコントロールした場合でも、国籍ごとに就業状態、職業選択および労働力移動の傾向に違いが見られること、さらに、外国人の男性就業者の場合、国籍を考慮しても、居住年数は就業の有無やホワイトカラー職の選択に対してマイナスの影響を及ぼす可能性があることが明らかになった。これらの結果は、個々人がおかれた社会経済的状况や世帯属性によって、居住状況が就業や職種に及ぼす影響は異なる様相を呈している可能性があることが見て取れる。

本稿では、2010年国勢調査の一時点を対象に、外国人の就業特性を把握するための事実発見的な分析にとどまっている。ゆえに、本稿は、理論仮説の検証というよりもむしろ探索的であり、かつ試論的な実証分析を行ったものである。したがって、本研究においては、モデル分析における因果性の厳密な検証を行う必要があると考える。また、複数時点の国勢調査の個票データを利用した上で、個人・世帯属性と地域特性の両面から細密に実証分析を行うことも求められよう。それによって、外国人の就業状況の時間軸上の変化や地域における世帯構造の違いを踏まえた就業行動の異質性をより精密に明らかにすることが可能になる。これらについては今後の研究課題としたい。

## 参考文献

- 伊藤伸介(2002)「アメリカにおけるマイクロ社会モデルの体系化の試み—オーカットの社会人口モデルと所得移転モデル—」, 『統計学』 第 83 号, 11~31 頁
- 伊藤伸介(2013)「マイクロシミュレーションモデルの方法的展開—アメリカのマイクロ社会分析モデルを例に—」, 明海大学『経済学論集』 Vol.26, No.1, 1~18 頁

伊藤伸介(2016)「わが国における外国人の就業特性について」『統計』2016年10月号, 47～51頁

稲垣誠一(2007)『日本の将来社会・人口構造分析：マイクロ・シミュレーションモデル(INAHSIM)による推計』, 財団法人日本統計協会

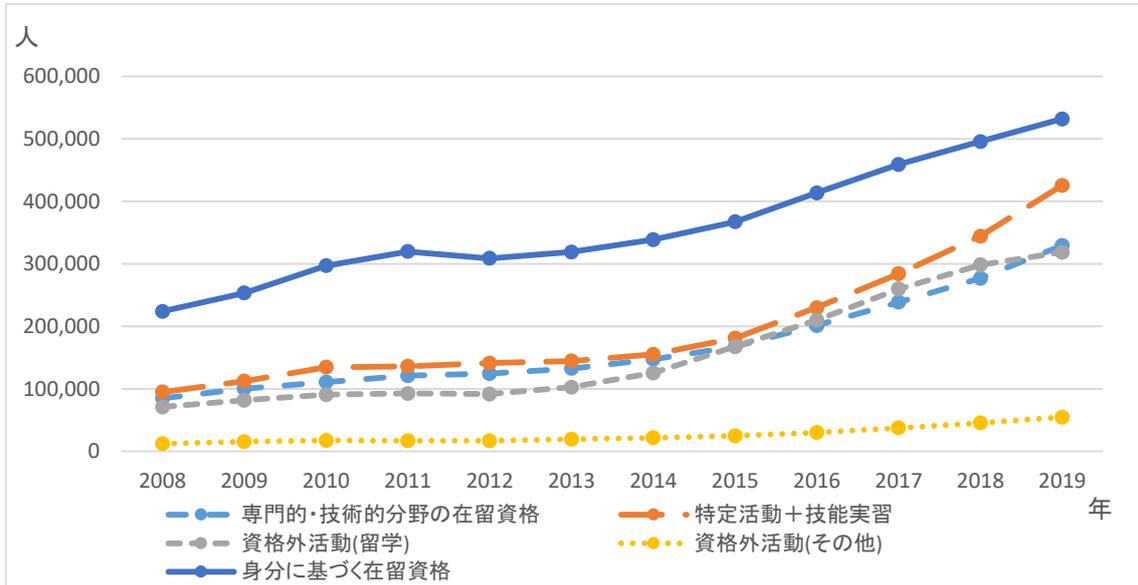
厚生労働省(2018)『平成30年版厚生労働白書—障害や病気などと向き合い、全ての人が活躍できる社会に—』

是川夕(2012)「日本における外国人の定住化についての社会階層論による分析—職業達成と世代間移動に焦点をあてて—」『ESRI Discussion Paper Series』No.28, 1～35頁

佐藤慶一・伊藤伸介(2016)「国勢調査個票データを利用した居住地移動ならびに外国人労働力の統計分析～東京都を対象としたケーススタディ～」, 総務省統計研修所『リサーチペーパー』第35号

中村二郎・内藤久裕・神林龍・川口大司・町北朋洋(2009)『日本の外国人労働力：経済学からの検証』日本経済新聞出版社

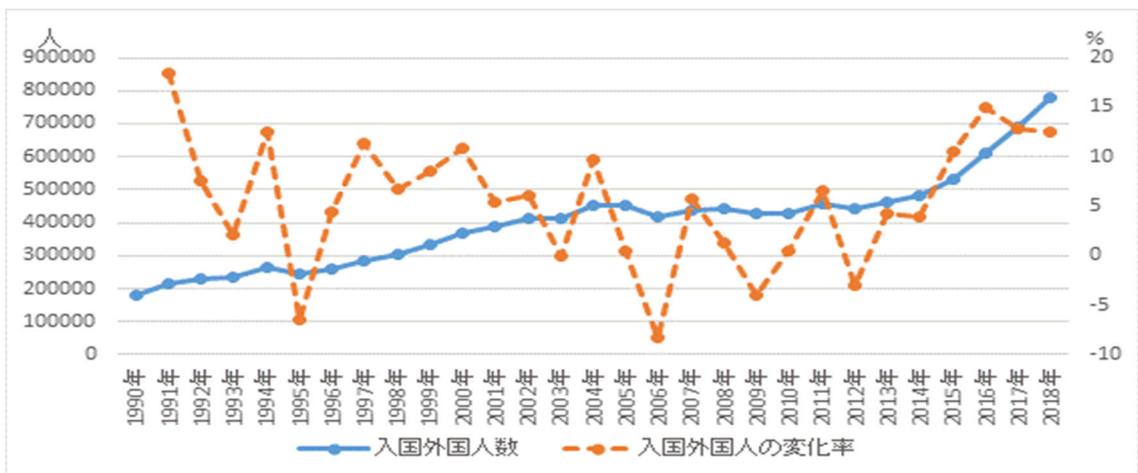
図1 在留資格別外国人労働者数の動向、2008年～2019年



注 「専門的・技術的分野の在留資格」については、「教授」、「芸術」、「宗教」、「報道」、「投資・経営」、「法律・会計業務」、「医療」、「研究」、「教育」、「技術」、「人文知識・国際業務」（「技術」と「人文知識・国際業務」の総計値）、「企業内転勤」、「興行」と「技能」が含まれている（2015年以降においては「投資・経営」ではなく、「高度専門職1号・2号」と「経営・管理」の区分が新たに設けられている。また、2017年に「介護」の項目が設けられている）。また、「身分に基づく在留資格」においては、「永住者」、「日本人の配偶者等」、「永住者の配偶者等」及び「定住者」がそれに該当する。なお、2010年7月に「技能実習」の在留資格が新設されたことから、本図では、「技能実習」と「特定活動」の総計を示している。

資料 厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況

図2 「専門的・技術的分野の在留資格」を持つ入国外国人の推移、1990年～2018年



注 「専門的・技術的分野の在留資格」の定義は、図1と同様である。

資料 法務省「出入国管理統計」

表1 15歳以上の外国人就業者数、2000年～2015年

国籍	2000年	2005年	2010年	2015年
韓国, 朝鮮	255,880	225,888	195,298	173,534
中国	121,574	185,738	239,826	232,756
フィリピン	42,328	64,185	71,041	94,165
タイ	9,632	11,366	13,048	16,535
イギリス	7,068	7,319	6,630	7,218
アメリカ	22,028	22,348	21,036	23,294
ブラジル	128,996	140,830	82,545	68,385
ペルー	20,192	22,552	17,763	17,305
総数	684,916	772,375	759,363	807,996

注 平成12年(2000年)国勢調査の集計結果表では、ベトナムとインドネシアの国籍を持つ就業者数が把握できないため、本表には含めていない。また、平成27年(2015年)国勢調査では、インドの国籍を持つ就業者数が捕捉可能であるが、本表には含めていない。

資料 総務省統計局「国勢調査」

表 2-1 モデル 1 の分析結果、男性

説明変数	係数	標準誤差	有意性
<b>年齢&lt;15～19歳&gt;</b>			
20～24歳	0.947	0.129	***
25～29歳	1.688	0.128	***
30～34歳	2.078	0.130	***
35～39歳	2.190	0.130	***
<b>学歴&lt;小学・中学卒&gt;</b>			
高校・旧制中卒	-0.329	0.062	***
短大・高専卒	-0.051	0.078	
大学・大学院卒	0.498	0.059	***
<b>国籍&lt;中国&gt;</b>			
韓国・朝鮮	0.198	0.052	***
フィリピン	0.303	0.112	***
タイ	0.121	0.181	
インドネシア	0.514	0.173	***
ベトナム	0.603	0.202	***
イギリス	0.644	0.157	***
アメリカ	0.255	0.093	***
ブラジル	0.394	0.171	**
ペルー	0.354	0.214	*
<b>居住年数&lt;1年未満&gt;</b>			
1～5年未満	0.473	0.051	***
5～10年未満	0.236	0.073	***
10～20年未満	-0.062	0.088	
20年以上	-0.172	0.104	***
<b>東京23区ダミー</b>	0.233	0.051	***
定数	-0.666	0.137	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.070		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.124		
-2対数尤度	14280.735		
LRカイ2乗	1372.286		
N	19040		

注 \*\*\*・1%有意、\*\*・5%有意、\*・10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 2-2 モデル 1 の分析結果、女性

説明変数	係数	標準誤差	有意性
<b>年齢&lt;15～19歳&gt;</b>			
20～24歳	0.600	0.120	***
25～29歳	0.618	0.116	***
30～34歳	0.404	0.116	***
35～39歳	0.317	0.116	***
<b>学歴&lt;小学・中学卒&gt;</b>			
高校・旧制中卒	-0.566	0.035	***
短大・高専卒	-0.381	0.041	***
大学・大学院卒	-0.010	0.034	
<b>国籍&lt;中国&gt;</b>			
韓国・朝鮮	0.132	0.030	***
フィリピン	-0.224	0.035	***
タイ	-0.474	0.072	***
インドネシア	-0.428	0.128	***
ベトナム	0.119	0.114	
イギリス	0.924	0.170	***
アメリカ	0.324	0.092	***
ブラジル	0.546	0.140	***
ペルー	0.615	0.179	***
<b>居住年数&lt;1年未満&gt;</b>			
1～5年未満	0.159	0.029	***
5～10年未満	0.277	0.038	***
10～20年未満	0.602	0.056	***
20年以上	0.981	0.092	***
<b>東京23区ダミー</b>	0.112	0.029	***
定数	-0.310	0.119	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.035		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.046		
-2対数尤度	39801.232		
LRカイ2乗	1056.395		
N	29663		

注 \*\*\*・1%有意、\*\*・5%有意、\*・10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 3-1 モデル 2 の分析結果、男性

説明変数	係数	標準誤差	有意性
<b>年齢&lt;15～19歳&gt;</b>			
20～24歳	0.481	0.224	**
25～29歳	0.917	0.220	****
30～34歳	1.172	0.220	****
35～39歳	0.966	0.220	****
<b>学歴&lt;小学・中学卒&gt;</b>			
高校・旧制中卒	0.866	0.057	****
短大・高専卒	1.128	0.064	****
大学・大学院卒	1.885	0.047	****
<b>国籍&lt;中国&gt;</b>			
韓国・朝鮮	-0.078	0.042	*
フィリピン	-0.575	0.099	****
タイ	0.037	0.156	
インドネシア	0.244	0.128	*
ベトナム	-0.163	0.147	
イギリス	-0.166	0.090	*
アメリカ	-0.255	0.066	****
ブラジル	-0.025	0.140	
ペルー	-0.344	0.180	*
<b>居住年数&lt;1年未満&gt;</b>			
1～5年未満	0.026	0.042	
5～10年未満	-0.090	0.060	
10～20年未満	0.070	0.083	
20年以上	0.054	0.097	
<b>東京23区ダミー</b>	-0.033	0.043	
定数	-1.660	0.225	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.131		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.177		
-2対数尤度	19468.656		
LRカイ2乗	2283.042		
サンプル数	16310		

注 \*\*\*\*・1%有意、\*\*・5%有意、\*・10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 3-2 モデル 2 の分析結果、女性

説明変数	係数	標準誤差	有意性
<b>年齢&lt;15～19歳&gt;</b>			
20～24歳	0.010	0.231	
25～29歳	0.131	0.227	
30～34歳	-0.022	0.227	
35～39歳	-0.388	0.227	*
<b>学歴&lt;小学・中学卒&gt;</b>			
高校・旧制中卒	0.450	0.066	****
短大・高専卒	1.259	0.066	****
大学・大学院卒	2.186	0.055	****
<b>国籍&lt;中国&gt;</b>			
韓国・朝鮮	0.201	0.043	****
フィリピン	-0.899	0.068	****
タイ	-0.530	0.137	****
インドネシア	-0.787	0.224	****
ベトナム	-0.546	0.176	****
イギリス	0.495	0.184	****
アメリカ	0.225	0.118	*
ブラジル	-0.318	0.201	
ペルー	0.029	0.250	
<b>居住年数&lt;1年未満&gt;</b>			
1～5年未満	0.159	0.029	****
5～10年未満	0.277	0.038	****
10～20年未満	0.602	0.056	****
20年以上	0.981	0.092	****
<b>東京23区ダミー</b>	0.112	0.029	****
定数	-1.852	0.232	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.206		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.279		
-2対数尤度	18054.795		
LRカイ2乗	3755.184		
サンプル数	16257		

注 \*\*\*\*・1%有意、\*\*・5%有意、\*・10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 4-1 モデル 3 の分析結果、男性

説明変数	係数	標準誤差	有意性
<b>年齢&lt;15～19歳&gt;</b>			
20～24歳	0.304	0.430	
25～29歳	0.931	0.425	**
30～34歳	1.105	0.425	****
35～39歳	1.039	0.425	*
<b>学歴&lt;小学・中学卒&gt;</b>			
高校・旧制中卒	0.562	0.085	****
短大・高専卒	1.799	0.082	****
大学・大学院卒	3.012	0.067	****
<b>国籍&lt;中国&gt;</b>			
韓国・朝鮮	0.216	0.045	****
フィリピン	-0.530	0.124	****
タイ	-0.363	0.186	*
インドネシア	-0.544	0.151	****
ベトナム	0.154	0.164	
イギリス	1.305	0.109	****
アメリカ	1.240	0.079	****
ブラジル	0.157	0.178	
ペルー	-1.063	0.302	****
<b>居住年数&lt;1年未満&gt;</b>			
1～5年未満	-0.023	0.046	
5～10年未満	-0.213	0.067	****
10～20年未満	-0.336	0.098	****
20年以上	-0.692	0.113	****
<b>東京23区ダミー</b>	0.034	0.047	
定数	-3.329	0.429	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.312		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.416		
-2対数尤度	16429.573		
LRカイ2乗	6095.152		
サンプル数	16310		

注 \*\*\*\*・・・1%有意、\*\*・・・5%有意、\*・・・10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 4-2 モデル 3 の分析結果、女性

説明変数	係数	標準誤差	有意性
<b>年齢&lt;15～19歳&gt;</b>			
20～24歳	-0.452	0.261	**
25～29歳	0.169	0.256	
30～34歳	0.310	0.256	
35～39歳	0.243	0.255	
<b>学歴&lt;小学・中学卒&gt;</b>			
高校・旧制中卒	0.784	0.071	****
短大・高専卒	1.598	0.071	****
大学・大学院卒	2.582	0.061	****
<b>国籍&lt;中国&gt;</b>			
韓国・朝鮮	0.579	0.044	****
フィリピン	-1.299	0.075	****
タイ	-0.198	0.132	
インドネシア	-0.371	0.219	*
ベトナム	-0.351	0.179	**
イギリス	1.301	0.216	****
アメリカ	1.196	0.136	****
ブラジル	0.139	0.195	
ペルー	-0.778	0.314	**
<b>居住年数&lt;1年未満&gt;</b>			
1～5年未満	0.065	0.047	
5～10年未満	0.020	0.062	
10～20年未満	0.104	0.084	
20年以上	0.123	0.109	
<b>東京23区ダミー</b>	-2.424	0.261	****
定数	-0.666	0.137	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.258		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.349		
-2対数尤度	17034.645		
LRカイ2乗	4860.726		
サンプル数	16257		

注 \*\*\*\*・・・1%有意、\*\*・・・5%有意、\*・・・10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 5-1 モデル 4 に関する分析結果、全国、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.555	0.013	***
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.069	0.107	
25～29歳	0.557	0.106	***
30～34歳	0.625	0.106	***
35～39歳	0.685	0.106	***
居住年数<1年未満>	-0.103	0.014	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.071	0.017	***
世帯人員	-0.053	0.006	***
学歴<中卒>			
高卒	0.232	0.029	***
短大卒	1.775	0.029	***
大卒	3.096	0.023	***
地域<関東>			
北海道	-0.176	0.049	***
東北	0.068	0.039	*
中部	-0.470	0.019	***
近畿	-0.165	0.018	***
中国	-0.430	0.033	***
四国	-0.475	0.050	***
九州	-0.181	0.028	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.185	0.018	***
フィリピン	-1.256	0.032	***
タイ	-0.365	0.053	***
インドネシア	-1.130	0.059	***
ベトナム	-0.670	0.044	***
イギリス	2.280	0.056	***
アメリカ	2.295	0.033	***
ブラジル	-0.912	0.039	***
ペルー	-1.686	0.098	***
定数	-3.875	0.107	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.279		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.485		
-2対数尤度	157658.851		
LRカイ2乗	97439.297		
N	297982		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 5-2 モデル 4 に関する分析結果、関東地域から移動、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.632	0.026	***
年齢<15～19歳>			
20～24歳	0.115	0.316	
25～29歳	0.504	0.310	
30～34歳	0.784	0.310	**
35～39歳	0.869	0.310	***
居住年数<1年未満>	0.010	0.027	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.147	0.029	***
世帯人員	-0.080	0.011	***
学歴<中卒>			
高卒	0.122	0.060	**
短大卒	1.364	0.056	***
大卒	2.230	0.047	***
地域<関東>			
北海道	0.171	0.224	
東北	0.312	0.151	**
中部	0.012	0.070	
近畿	-0.099	0.082	
中国	0.166	0.180	
四国	0.386	0.337	
九州	0.466	0.141	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.217	0.031	***
フィリピン	-1.149	0.072	***
タイ	0.059	0.109	
インドネシア	-0.287	0.129	**
ベトナム	-0.184	0.111	*
イギリス	1.467	0.098	***
アメリカ	1.381	0.069	***
ブラジル	-1.213	0.083	***
ペルー	-1.937	0.155	***
定数	-3.434	0.313	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.229		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.345		
-2対数尤度	12626.385		
LRカイ2乗	40203.912		
N	48659		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 6-1 モデル 4 に関する分析結果、全国、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.447	0.022	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.066	0.024	***
50～54歳	0.052	0.029	*
55～59歳	0.099	0.036	***
居住年数<1年未満>	0.016	0.024	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.000	0.022	
世帯人員	-0.013	0.008	*
学歴<中卒>			
高卒	0.062	0.037	*
短大卒	1.053	0.043	***
大卒	2.284	0.031	***
地域<関東>			
北海道	0.729	0.083	***
東北	0.423	0.063	***
中部	-0.119	0.030	***
近畿	0.100	0.027	***
中国	0.099	0.058	*
四国	0.295	0.098	***
九州	0.461	0.045	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.066	0.024	***
フィリピン	-1.710	0.051	***
タイ	-0.227	0.079	***
インドネシア	-0.600	0.129	***
ベトナム	-0.924	0.177	***
イギリス	1.583	0.072	***
アメリカ	1.243	0.041	***
ブラジル	-1.640	0.046	***
ペルー	-2.464	0.112	***
定数	-2.733	0.045	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.246		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.404		
-2対数尤度	64499.353		
LRカイ2乗	27796.223		
N	98650		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 6-2 モデル 4 に関する分析結果、関東地域から移動、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.499	0.035	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.043	0.038	
50～54歳	0.011	0.046	
55～59歳	0.103	0.059	*
居住年数<1年未満>	0.071	0.039	*
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.179	0.035	
世帯人員	-0.012	0.013	
学歴<中卒>			
高卒	0.016	0.062	
短大卒	0.836	0.070	***
大卒	2.125	0.052	***
地域<関東>			
北海道	0.486	0.295	*
東北	0.444	0.211	**
中部	0.165	0.107	
近畿	0.154	0.137	
中国	0.580	0.280	**
四国	0.117	0.471	
九州	0.627	0.206	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.006	0.039	
フィリピン	-1.670	0.082	***
タイ	-0.336	0.113	***
インドネシア	-0.495	0.220	**
ベトナム	-1.345	0.319	***
イギリス	1.372	0.110	***
アメリカ	1.362	0.068	***
ブラジル	-1.778	0.091	***
ペルー	-2.584	0.164	***
定数	-2.570	0.073	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.249		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.392		
-2対数尤度	24945.049		
LRカイ2乗	9892.814		
N	34486		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 7-1 モデル 5 に関する分析結果、北海道地域から同地域への移動の有無、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.049	0.150	
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.670	0.834	
25～29歳	-0.786	0.806	
30～34歳	-0.477	0.804	
35～39歳	-0.471	0.806	
居住年数<1年未満>	0.471	0.148	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.537	0.178	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.360	0.215	*
夫婦と子供の世帯	0.243	0.196	
片親と子供の世帯	0.320	0.433	
夫婦と親の世帯	-0.705	0.780	
夫婦と子供と親の世帯	1.108	0.792	
その他の世帯	0.803	0.368	**
学歴<中卒>			
高卒	0.363	0.268	
短大卒	0.594	0.348	*
大卒	-0.431	0.222	*
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.309	0.180	*
フィリピン	0.231	0.354	
タイ	-1.111	0.736	
インドネシア	0.031	0.835	
ベトナム	-0.039	0.835	
イギリス	0.669	0.539	
アメリカ	0.294	0.342	
ブラジル	-0.084	0.668	
定数	-3.875	0.107	
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.100		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.141		
-2対数尤度	1228.686		
LRカイ2乗	114.806		
N	1088		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 7-2 モデル 5 に関する分析結果、東北地域から同地域への移動の有無、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.276	0.098	***
年齢<15～19歳>			
20～24歳	1.337	0.489	***
25～29歳	1.196	0.480	**
30～34歳	1.522	0.480	***
35～39歳	1.514	0.481	***
居住年数<1年未満>	0.575	0.098	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	1.169	0.113	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.831	0.144	***
夫婦と子供の世帯	-0.203	0.134	
片親と子供の世帯	-0.381	0.216	*
夫婦と親の世帯	0.343	0.507	
夫婦と子供と親の世帯	0.768	0.427	*
その他の世帯	-0.578	0.181	***
学歴<中卒>			
高卒	-0.041	0.139	
短大卒	-0.346	0.175	**
大卒	-0.864	0.142	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.636	0.126	***
フィリピン	-0.100	0.155	
タイ	-0.411	0.471	
インドネシア	-0.252	0.355	
ベトナム	0.481	0.383	
イギリス	0.337	0.383	
アメリカ	0.652	0.232	***
ブラジル	-1.472	0.228	***
ペルー	-1.076	0.506	**
定数	-1.174	0.486	**
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.190		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.255		
-2対数尤度	2855.838		
LRカイ2乗	520.896		
N	2478		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 7-3 モデル 5 に関する分析結果、関東地域から同地域への移動の有無、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.276	0.038	****
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.148	0.226	
25～29歳	-0.399	0.220	*
30～34歳	-0.259	0.219	
35～39歳	-0.085	0.220	
居住年数<1年未満>	0.337	0.038	****
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.096	0.047	**
世帯類型 <単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.492	0.055	****
夫婦と子供の世帯	0.607	0.049	****
片親と子供の世帯	0.607	0.098	****
夫婦と親の世帯	0.819	0.240	****
夫婦と子供と親の世帯	0.155	0.127	
その他の世帯	0.671	0.072	****
学歴<中卒>			
高卒	-0.256	0.059	****
短大卒	-0.286	0.075	****
大卒	-0.697	0.056	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.504	0.047	****
フィリピン	-0.255	0.074	****
タイ	-0.045	0.165	
インドネシア	-0.302	0.171	*
ベトナム	-0.212	0.143	
イギリス	-0.153	0.155	
アメリカ	-0.099	0.113	
ブラジル	-0.794	0.062	****
ペルー	0.084	0.117	
定数	2.947	0.224	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.019		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.047		
-2対数尤度	23776.790		
LRカイ2乗	921.690		
N	48659		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 7-4 モデル 5 に関する分析結果、中部地域から同地域への移動の有無、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.162	0.039	****
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.003	0.183	
25～29歳	-0.260	0.177	
30～34歳	-0.228	0.176	
35～39歳	-0.162	0.177	
居住年数<1年未満>	0.323	0.039	****
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.152	0.050	****
世帯類型 <単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.157	0.056	****
夫婦と子供の世帯	0.486	0.052	****
片親と子供の世帯	0.303	0.094	****
夫婦と親の世帯	0.321	0.201	
夫婦と子供と親の世帯	0.545	0.143	****
その他の世帯	0.193	0.066	****
学歴<中卒>			
高卒	0.014	0.050	
短大卒	-0.295	0.078	****
大卒	-0.865	0.054	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.143	0.063	**
フィリピン	0.547	0.066	****
タイ	0.261	0.199	
インドネシア	0.263	0.152	*
ベトナム	0.255	0.178	
イギリス	0.002	0.205	
アメリカ	0.066	0.148	
ブラジル	0.506	0.052	****
ペルー	0.294	0.099	****
定数	1.745	0.182	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.040		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.078		
-2対数尤度	20377.773		
LRカイ2乗	1211.927		
N	29410		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 7-5 モデル 5 に関する分析結果、近畿地域から同地域への移動の有無、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.155	0.040	***
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.106	0.206	
25～29歳	-0.256	0.200	
30～34歳	-0.110	0.200	
35～39歳	-0.007	0.200	
居住年数<1年未満>	0.390	0.041	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.228	0.051	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.403	0.059	***
夫婦と子供の世帯	0.943	0.054	***
片親と子供の世帯	1.521	0.116	***
夫婦と親の世帯	0.335	0.215	
夫婦と子供と親の世帯	1.232	0.176	***
その他の世帯	0.648	0.073	***
学歴<中卒>			
高卒	0.061	0.061	
短大卒	-0.184	0.080	**
大卒	-0.830	0.059	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.397	0.047	***
フィリピン	-0.202	0.093	**
タイ	-0.341	0.208	
インドネシア	0.196	0.194	
ベトナム	0.265	0.165	
イギリス	0.208	0.201	
アメリカ	-0.009	0.138	
ブラジル	-0.308	0.068	***
ペルー	0.531	0.163	***
定数	1.220	0.206	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.074		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.127		
-2対数尤度	17616.298		
LRカイ2乗	1711.756		
N	22359		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 7-6 モデル 5 に関する分析結果、中国地域から同地域への移動の有無、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.260	0.079	***
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.171	0.364	
25～29歳	-0.425	0.358	
30～34歳	-0.257	0.358	
35～39歳	-0.185	0.359	
居住年数<1年未満>	0.378	0.080	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.399	0.099	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.142	0.114	
夫婦と子供の世帯	0.442	0.104	***
片親と子供の世帯	0.424	0.187	**
夫婦と親の世帯	0.849	0.550	
夫婦と子供と親の世帯	0.757	0.336	**
その他の世帯	0.013	0.150	
学歴<中卒>			
高卒	0.068	0.113	
短大卒	-0.214	0.158	
大卒	-1.148	0.110	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.118	0.098	
フィリピン	-0.418	0.145	***
タイ	0.735	0.548	
インドネシア	-0.212	0.333	
ベトナム	-0.325	0.337	
イギリス	-0.461	0.328	
アメリカ	-0.375	0.237	
ブラジル	-0.543	0.130	***
ペルー	-0.208	0.318	
定数	1.699	0.363	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.088		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.134		
-2対数尤度	4473.465		
LRカイ2乗	421.515		
N	4585		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 7-7 モデル 5 に関する分析結果、四国地域から同地域への移動の有無、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.247	0.144	*
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.696	0.829	
25～29歳	-0.658	0.810	
30～34歳	-0.428	0.809	
35～39歳	-0.544	0.808	
居住年数<1年未満>	0.304	0.152	**
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.749	0.177	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.515	0.224	**
夫婦と子供の世帯	0.087	0.188	
片親と子供の世帯	-0.019	0.326	
夫婦と親の世帯	-0.080	0.811	
夫婦と子供と親の世帯	0.664	0.583	
その他の世帯	-0.687	0.292	**
学歴<中卒>			
高卒	-0.056	0.216	
短大卒	0.131	0.273	
大卒	-0.890	0.199	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.174	0.191	
フィリピン	0.451	0.223	**
タイ	-2.642	1.146	**
インドネシア	0.453	0.520	
ベトナム	0.566	1.286	
イギリス	0.366	0.615	
アメリカ	-0.324	0.358	
ブラジル	-1.456	0.399	***
ペルー	1.088	0.651	*
定数	1.489	0.825	*
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.125		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.177		
-2対数尤度	1308.545		
LRカイ2乗	158.903		
N	1186		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 7-8 モデル 5 に関する分析結果、九州地域から同地域への移動の有無、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.115	0.068	*
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.258	0.445	
25～29歳	-0.373	0.435	
30～34歳	-0.130	0.435	
35～39歳	-0.049	0.435	
居住年数<1年未満>	0.106	0.071	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.817	0.085	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.107	0.096	
夫婦と子供の世帯	0.489	0.093	***
片親と子供の世帯	0.613	0.179	***
夫婦と親の世帯	0.326	0.410	
夫婦と子供と親の世帯	0.560	0.287	*
その他の世帯	-0.115	0.133	
学歴<中卒>			
高卒	0.137	0.120	
短大卒	0.031	0.147	
大卒	-0.623	0.103	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.358	0.087	***
フィリピン	0.354	0.137	***
タイ	-0.502	0.490	
インドネシア	-0.337	0.262	
ベトナム	-0.662	0.306	**
イギリス	0.622	0.271	**
アメリカ	0.988	0.194	***
ブラジル	-1.232	0.308	***
ペルー	0.606	0.556	
定数	0.839	0.437	*
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.127		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.183		
-2対数尤度	5690.891		
LRカイ2乗	736.075		
N	5415		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 8-1 モデル 5 に関する分析結果、北海道地域から同地域への移動の有無、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.110	0.213	
年齢<40～44歳>			
45～49歳	-0.092	0.240	
50～54歳	0.126	0.300	
55～59歳	0.081	0.344	
居住年数<1年未満>	0.209	0.236	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.724	0.236	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.689	0.343	**
夫婦と子供の世帯	-0.014	0.283	
片親と子供の世帯	0.348	0.433	
夫婦と親の世帯	18.969	22915.021	
夫婦と子供と親の世帯	0.924	1.080	
その他の世帯	-0.080	0.460	
学歴<中卒>			
高卒	-0.357	0.317	
短大卒	-0.293	0.426	
大卒	-0.504	0.316	
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.121	0.241	
フィリピン	-0.212	0.399	
タイ	-1.768	0.774	**
インドネシア	-1.637	1.489	
イギリス	1.153	1.059	
アメリカ	-0.407	0.384	
ブラジル	-0.429	0.625	
ペルー	-2.216	1.259	*
定数	1.480	0.420	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.050		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.080		
-2対数尤度	658.645		
LRカイ2乗	36.667		
N	714		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 8-2 モデル 5 に関する分析結果、東北地域から同地域への移動の有無、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.269	0.125	**
年齢<40～44歳>			
45～49歳	-0.056	0.135	
50～54歳	0.149	0.168	
55～59歳	0.336	0.210	
居住年数<1年未満>	0.345	0.129	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.950	0.138	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.322	0.190	*
夫婦と子供の世帯	-0.103	0.167	
片親と子供の世帯	0.245	0.237	
夫婦と親の世帯	1.358	0.767	*
夫婦と子供と親の世帯	1.154	0.505	**
その他の世帯	-0.309	0.242	
学歴<中卒>			
高卒	0.139	0.155	
短大卒	0.079	0.229	
大卒	0.229	0.165	
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.526	0.142	***
フィリピン	0.215	0.178	
タイ	-0.111	0.536	
インドネシア	-1.277	0.785	
ベトナム	20.925	17639.396	
イギリス	0.371	0.586	
アメリカ	0.069	0.290	
ブラジル	-1.291	0.247	***
ペルー	-0.657	0.517	
定数	0.005	0.211	
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.127		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.178		
-2対数尤度	1885.703		
LRカイ2乗	230.405		
N	1692		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 8-3 モデル 5 に関する分析結果、関東地域から同地域への移動の有無、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.274	0.057	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.099	0.061	
50～54歳	0.290	0.074	***
55～59歳	0.173	0.086	**
居住年数<1年未満>	0.418	0.055	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.091	0.066	
世帯類型 <単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.445	0.082	***
夫婦と子供の世帯	1.022	0.070	***
片親と子供の世帯	0.783	0.114	***
夫婦と親の世帯	-0.323	0.195	*
夫婦と子供と親の世帯	0.777	0.218	***
その他の世帯	0.696	0.106	***
学歴<中卒>			
高卒	-0.247	0.074	***
短大卒	-0.291	0.107	***
大卒	-0.596	0.075	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.434	0.068	***
フィリピン	0.095	0.100	
タイ	0.179	0.179	
インドネシア	-0.259	0.332	
ベトナム	0.057	0.365	
イギリス	-0.043	0.210	
アメリカ	-0.045	0.133	
ブラジル	-0.758	0.078	***
ペルー	0.333	0.146	**
定数	2.616	0.101	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.019		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.059		
-2対数尤度	12769.772		
LRカイ2乗	660.136		
N	34486		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 8-4 モデル 5 に関する分析結果、中部地域から同地域への移動の有無、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.305	0.056	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.198	0.063	***
50～54歳	0.091	0.071	
55～59歳	0.126	0.088	
居住年数<1年未満>	0.451	0.054	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.268	0.072	***
世帯類型 <単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.267	0.078	***
夫婦と子供の世帯	0.743	0.069	***
片親と子供の世帯	0.466	0.113	***
夫婦と親の世帯	0.386	0.271	
夫婦と子供と親の世帯	0.804	0.202	***
その他の世帯	0.204	0.091	**
学歴<中卒>			
高卒	-0.062	0.065	
短大卒	-0.213	0.109	*
大卒	-0.556	0.073	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.096	0.084	
フィリピン	0.426	0.094	***
タイ	0.189	0.230	
インドネシア	-0.351	0.278	
ベトナム	0.148	0.442	
イギリス	-0.342	0.278	
アメリカ	-0.155	0.195	
ブラジル	0.461	0.071	***
ペルー	0.277	0.124	***
定数	1.470	0.102	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.025		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.054		
-2対数尤度	11218.796		
LRカイ2乗	470.879		
N	18407		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 8-5 モデル 5 に関する分析結果、近畿地域から同地域への移動の有無、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.214	0.066	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.195	0.074	
50～54歳	0.263	0.086	
55～59歳	0.399	0.101	
居住年数<1年未満>	0.458	0.066	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.120	0.080	
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.194	0.095	**
夫婦と子供の世帯	0.957	0.083	***
片親と子供の世帯	0.767	0.128	***
夫婦と親の世帯	1.460	0.518	***
夫婦と子供と親の世帯	1.101	0.261	***
その他の世帯	0.551	0.122	***
学歴<中卒>			
高卒	-0.125	0.082	
短大卒	-0.376	0.124	***
大卒	-0.649	0.087	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.725	0.083	***
フィリピン	-0.142	0.129	
タイ	-0.053	0.294	
インドネシア	-0.872	0.327	***
ベトナム	0.184	0.376	
イギリス	-0.196	0.284	
アメリカ	-0.088	0.174	
ブラジル	-0.502	0.093	***
ペルー	0.042	0.174	
定数	1.522	0.122	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.044		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.099		
-2対数尤度	8005.533		
LRカイ2乗	666.870		
N	14948		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 8-6 モデル 5 に関する分析結果、中国地域から同地域への移動の有無、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.161	0.117	
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.336	0.131	**
50～54歳	0.399	0.158	**
55～59歳	0.419	0.175	**
居住年数<1年未満>	0.483	0.120	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.033	0.137	
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.279	0.169	*
夫婦と子供の世帯	0.627	0.147	***
片親と子供の世帯	0.700	0.222	***
夫婦と親の世帯	-0.039	0.494	
夫婦と子供と親の世帯	0.657	0.386	*
その他の世帯	0.698	0.245	***
学歴<中卒>			
高卒	0.103	0.137	
短大卒	-0.410	0.220	*
大卒	-0.340	0.152	**
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.286	0.148	*
フィリピン	0.683	0.229	***
タイ	-0.413	0.698	
インドネシア	0.165	0.525	
ベトナム	19.900	28141.253	
イギリス	0.393	0.515	
アメリカ	-0.335	0.284	
ブラジル	-0.531	0.163	***
ペルー	-0.090	0.330	
定数	0.626	0.221	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.050		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.083		
-2対数尤度	2290.113		
LRカイ2乗	132.870		
N	2567		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 8-7 モデル 5 に関する分析結果、四国地域から同地域への移動の有無、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.259	0.211	
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.589	0.244	**
50～54歳	0.279	0.281	
55～59歳	0.021	0.324	
居住年数<1年未満>	0.417	0.214	*
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.213	0.240	
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.128	0.337	
夫婦と子供の世帯	0.440	0.263	*
片親と子供の世帯	0.321	0.382	
夫婦と親の世帯	0.394	0.856	
夫婦と子供と親の世帯	-0.338	0.569	
その他の世帯	0.332	0.490	
学歴<中卒>			
高卒	0.266	0.266	
短大卒	-0.094	0.380	
大卒	-0.024	0.272	
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.287	0.255	
フィリピン	0.781	0.330	**
タイ	0.252	1.158	
インドネシア	20.128	28385.663	
ベトナム	20.598	40192.969	
イギリス	0.846	1.137	
アメリカ	0.228	0.455	
ブラジル	-0.228	0.412	
ペルー	0.153	0.483	
定数	0.168	0.351	
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.054		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.080		
-2対数尤度	678.904		
LRカイ2乗	35.342		
N	642		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 8-8 モデル 5 に関する分析結果、九州地域から同地域への移動の有無、40～59 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.456	0.130	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.340	0.133	**
50～54歳	0.799	0.180	***
55～59歳	0.613	0.205	***
居住年数<1年未満>	0.102	0.133	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.480	0.133	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.008	0.199	
夫婦と子供の世帯	0.334	0.166	**
片親と子供の世帯	-0.124	0.217	
夫婦と親の世帯	0.709	0.762	
夫婦と子供と親の世帯	0.708	0.458	
その他の世帯	0.049	0.266	
学歴<中卒>			
高卒	-0.246	0.173	
短大卒	-0.240	0.243	
大卒	-0.522	0.169	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.363	0.138	***
フィリピン	0.426	0.198	**
タイ	-0.612	0.572	
インドネシア	-0.802	0.724	
ベトナム	-0.956	0.716	
イギリス	1.156	0.531	**
アメリカ	0.673	0.240	***
ブラジル	-1.254	0.338	***
ペルー	-0.826	0.343	**
定数	1.537	0.234	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.045		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.083		
-2対数尤度	2193.606		
LRカイ2乗	137.699		
N	2979		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 9-1 モデル 5'に関する分析結果、北海道地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、15～39歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.818	0.034	****
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.076	0.071	
25～29歳	-0.515	0.075	****
30～34歳	-0.355	0.076	****
35～39歳	-0.349	0.086	****
居住年数<1年未満>	-0.340	0.029	****
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.379	0.079	****
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.924	0.086	****
夫婦と子供の世帯	-0.763	0.093	****
片親と子供の世帯	-2.047	0.504	****
夫婦と親の世帯	-1.451	0.244	****
夫婦と子供と親の世帯	-1.508	0.301	****
その他の世帯	-0.440	0.080	****
学歴<中卒>			
高卒	-0.192	0.032	****
短大卒	-0.403	0.069	****
大卒	-0.264	0.051	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.381	0.114	****
フィリピン	-0.830	0.080	****
タイ	-0.137	0.111	
インドネシア	-2.372	0.231	****
ベトナム	-1.497	0.124	****
イギリス	0.660	0.132	**
アメリカ	0.210	0.086	****
ブラジル	-2.993	0.336	****
ペルー	-17.349	1246.322	
定数	-2.236	0.068	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.020		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.080		
-2対数尤度	45519.523		
LRカイ2乗	3461.340		
N	173606		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 9-2 モデル 5'に関する分析結果、東北地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、15～39歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-1.071	0.028	****
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.136	0.068	*
25～29歳	-0.049	0.069	
30～34歳	0.014	0.070	
35～39歳	0.050	0.076	
居住年数<1年未満>	0.095	0.024	****
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.307	0.067	****
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-1.126	0.070	****
夫婦と子供の世帯	-0.913	0.074	****
片親と子供の世帯	-0.892	0.209	****
夫婦と親の世帯	-0.210	0.116	*
夫婦と子供と親の世帯	0.170	0.115	
その他の世帯	-0.946	0.075	****
学歴<中卒>			
高卒	-0.093	0.026	****
短大卒	-0.239	0.055	****
大卒	-0.159	0.040	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.469	0.096	****
フィリピン	-0.448	0.054	****
タイ	-1.134	0.143	****
インドネシア	-0.417	0.081	****
ベトナム	-0.381	0.063	****
イギリス	0.650	0.116	**
アメリカ	0.860	0.060	****
ブラジル	-2.790	0.261	****
ペルー	-2.718	0.709	****
定数	-2.304	0.065	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.025		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.078		
-2対数尤度	63039.643		
LRカイ2乗	4387.725		
N	173606		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 9-3 モデル 5'に関する分析結果、関東地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、15～39歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.598	0.012	***
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.068	0.039	*
25～29歳	0.108	0.039	***
30～34歳	0.083	0.040	**
35～39歳	0.110	0.042	***
居住年数<1年未満>	-0.088	0.012	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.065	0.021	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	1.057	0.021	***
夫婦と子供の世帯	0.985	0.023	***
片親と子供の世帯	1.248	0.060	***
夫婦と親の世帯	0.685	0.057	***
夫婦と子供と親の世帯	0.509	0.063	***
その他の世帯	0.782	0.023	***
学歴<中卒>			
高卒	-0.059	0.014	***
短大卒	0.214	0.023	***
大卒	0.696	0.017	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.862	0.032	***
フィリピン	-0.361	0.022	***
タイ	0.152	0.040	***
インドネシア	-0.120	0.029	***
ベトナム	-0.391	0.029	***
イギリス	-0.137	0.055	**
アメリカ	-0.447	0.032	***
ブラジル	-0.850	0.030	***
ペルー	0.026	0.068	
定数	-1.599	0.039	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.105		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.150		
-2対数尤度	187857.797		
LRカイ2乗	19189.042		
N	173606		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 9-4 モデル 5'に関する分析結果、中部地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、15～39歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.053	0.012	***
年齢<15～19歳>			
20～24歳	0.062	0.034	*
25～29歳	0.037	0.035	
30～34歳	0.014	0.036	
35～39歳	-0.011	0.038	
居住年数<1年未満>	-0.017	0.011	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.016	0.023	
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.248	0.023	***
夫婦と子供の世帯	-0.319	0.026	***
片親と子供の世帯	-0.234	0.063	***
夫婦と親の世帯	0.180	0.057	***
夫婦と子供と親の世帯	-0.003	0.062	
その他の世帯	0.149	0.024	***
学歴<中卒>			
高卒	0.134	0.013	***
短大卒	-0.028	0.023	
大卒	-0.406	0.018	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.981	0.049	***
フィリピン	0.363	0.020	***
タイ	0.299	0.039	***
インドネシア	0.040	0.027	
ベトナム	0.279	0.024	***
イギリス	-0.353	0.073	***
アメリカ	-0.252	0.039	***
ブラジル	1.394	0.027	***
ペルー	0.396	0.069	***
定数	-0.950	0.034	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.041		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.058		
-2対数尤度	201321.171		
LRカイ2乗	7186.718		
N	173606		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 9-5 モデル 5'に関する分析結果、近畿地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、15～39歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.076	0.015	****
年齢<15～19歳>			
20～24歳	0.187	0.050	****
25～29歳	0.173	0.051	****
30～34歳	0.138	0.052	****
35～39歳	0.121	0.054	**
居住年数<1年未満>	-0.015	0.015	****
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.004	0.029	****
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.058	0.029	**
夫婦と子供の世帯	0.103	0.031	****
片親と子供の世帯	-0.091	0.088	
夫婦と親の世帯	-0.045	0.079	
夫婦と子供と親の世帯	0.004	0.083	
その他の世帯	-0.176	0.033	****
学歴<中卒>			
高卒	0.228	0.018	****
短大卒	0.367	0.029	****
大卒	0.255	0.023	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.129	0.044	****
フィリピン	-0.304	0.030	****
タイ	-0.399	0.062	****
インドネシア	0.005	0.036	
ベトナム	0.364	0.029	****
イギリス	-0.163	0.079	**
アメリカ	0.045	0.041	
ブラジル	0.051	0.036	
ペルー	0.375	0.085	****
定数	-2.224	0.050	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.005		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.009		
-2対数尤度	134755.538		
LRカイ2乗	859.617		
N	173606		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 9-6 モデル 5'に関する分析結果、中国地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、15～39歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.165	0.019	****
年齢<15～19歳>			
20～24歳	0.042	0.056	
25～29歳	0.092	0.057	
30～34歳	0.088	0.058	
35～39歳	-0.024	0.063	
居住年数<1年未満>	0.185	0.019	****
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.001	0.049	
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.867	0.048	****
夫婦と子供の世帯	-0.954	0.053	****
片親と子供の世帯	-1.237	0.151	****
夫婦と親の世帯	-0.651	0.108	****
夫婦と子供と親の世帯	-0.578	0.111	****
その他の世帯	-1.048	0.054	****
学歴<中卒>			
高卒	-0.061	0.020	****
短大卒	-0.114	0.036	****
大卒	-0.679	0.033	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.692	0.092	****
フィリピン	0.625	0.031	****
タイ	0.559	0.055	****
インドネシア	0.038	0.044	
ベトナム	0.476	0.034	****
イギリス	0.174	0.119	
アメリカ	0.260	0.062	****
ブラジル	-0.172	0.059	****
ペルー	-0.381	0.180	**
定数	-2.208	0.055	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.022		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.048		
-2対数尤度	99547.467		
LRカイ2乗	3796.379		
N	173606		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 9-7 モデル 5'に関する分析結果、四国地域への移動の有無、5 年以内に海外から移動し国内に居住、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.040	0.024	*
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.044	0.069	
25～29歳	-0.098	0.070	
30～34歳	0.057	0.071	
35～39歳	0.149	0.077	*
居住年数<1年未満>	0.173	0.024	****
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.175	0.078	**
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-1.437	0.081	****
夫婦と子供の世帯	-1.459	0.087	****
片親と子供の世帯	-1.236	0.217	****
夫婦と親の世帯	-1.509	0.197	****
夫婦と子供と親の世帯	-1.400	0.199	****
その他の世帯	-1.371	0.083	****
学歴<中卒>			
高卒	-0.316	0.025	****
短大卒	-0.705	0.055	****
大卒	-0.989	0.045	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-1.269	0.165	****
フィリピン	0.375	0.042	****
タイ	-0.663	0.113	****
インドネシア	0.376	0.048	****
ベトナム	-0.632	0.065	****
イギリス	-0.101	0.175	
アメリカ	0.357	0.080	****
ブラジル	-2.050	0.180	****
ペルー	-0.294	0.236	
定数	-2.475	0.067	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.023		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.069		
-2対数尤度	66353.370		
LRカイ2乗	4018.976		
N	173606		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 9-8 モデル 5'に関する分析結果、九州地域への移動の有無、5 年以内に海外から移動し国内に居住、15～39 歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.527	0.020	****
年齢<15～19歳>			
20～24歳	-0.150	0.053	****
25～29歳	-0.294	0.055	****
30～34歳	-0.351	0.056	****
35～39歳	-0.275	0.061	****
居住年数<1年未満>	0.061	0.020	****
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.410	0.045	****
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.651	0.047	****
夫婦と子供の世帯	-0.539	0.051	****
片親と子供の世帯	-0.551	0.134	****
夫婦と親の世帯	-1.040	0.121	****
夫婦と子供と親の世帯	-0.479	0.108	****
その他の世帯	-0.582	0.050	****
学歴<中卒>			
高卒	-0.084	0.022	****
短大卒	-0.110	0.040	****
大卒	-0.157	0.031	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.066	0.062	
フィリピン	0.221	0.035	****
タイ	-0.584	0.092	****
インドネシア	0.564	0.041	****
ベトナム	-0.224	0.047	****
イギリス	0.608	0.090	****
アメリカ	0.786	0.048	****
ブラジル	-2.661	0.182	****
ペルー	-1.786	0.336	****
定数	-1.941	0.052	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.018		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.042		
-2対数尤度	90536.088		
LRカイ2乗	3094.869		
N	173606		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 10-1 モデル 5'に関する分析結果、北海道地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、40～59歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.386	0.152	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.037	0.154	
50～54歳	0.016	0.196	
55～59歳	0.285	0.224	
居住年数<1年未満>	-0.012	0.139	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.640	0.182	***
世帯類型 <単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.926	0.212	***
夫婦と子供の世帯	-1.016	0.192	***
片親と子供の世帯	-1.182	0.524	**
夫婦と親の世帯	-0.971	0.458	**
夫婦と子供と親の世帯	-1.148	0.541	**
その他の世帯	-1.136	0.312	***
学歴<中卒>			
高卒	0.189	0.199	
短大卒	0.307	0.273	
大卒	0.475	0.185	**
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.107	0.212	
フィリピン	-0.154	0.215	
タイ	-1.934	1.006	*
インドネシア	0.114	0.515	
ベトナム	-17.062	3534.560	
イギリス	0.153	0.326	
アメリカ	0.088	0.205	
ブラジル	-4.031	1.007	***
ペルー	-16.885	1888.497	
定数	-4.147	0.217	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.010		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.077		
-2対数尤度	2484.715		
LRカイ2乗	194.281		
N	18988		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
< >はリファレンス・グループを表している。

表 10-2 モデル 5'に関する分析結果、東北地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、40～59歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.663	0.099	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.110	0.098	
50～54歳	-0.184	0.139	
55～59歳	-0.144	0.181	
居住年数<1年未満>	-0.003	0.098	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.911	0.123	***
世帯類型 <単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.586	0.153	***
夫婦と子供の世帯	-0.813	0.146	***
片親と子供の世帯	-1.092	0.326	***
夫婦と親の世帯	0.506	0.194	***
夫婦と子供と親の世帯	-0.010	0.241	
その他の世帯	-0.365	0.178	**
学歴<中卒>			
高卒	-0.003	0.107	
短大卒	-0.427	0.189	**
大卒	-0.275	0.122	**
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.800	0.114	***
フィリピン	-0.353	0.140	**
タイ	-0.803	0.328	**
インドネシア	-0.776	0.588	
ベトナム	-1.023	0.719	
イギリス	-0.474	0.392	
アメリカ	0.267	0.173	
ブラジル	-2.577	0.363	***
ペルー	-17.593	1889.453	
定数	-2.816	0.134	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.033		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.134		
-2対数尤度	4747.629		
LRカイ2乗	640.235		
N	18988		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
< >はリファレンス・グループを表している。

表 10-3 モデル 5'に関する分析結果、関東地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、40～59歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.246	0.033	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.138	0.036	***
50～54歳	0.242	0.045	***
55～59歳	0.288	0.057	***
居住年数<1年未満>	0.076	0.034	**
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.016	0.040	
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.330	0.047	***
夫婦と子供の世帯	0.454	0.042	***
片親と子供の世帯	0.339	0.086	***
夫婦と親の世帯	-0.162	0.108	
夫婦と子供と親の世帯	-0.196	0.121	
その他の世帯	0.340	0.058	***
学歴<中卒>			
高卒	-0.092	0.040	**
短大卒	0.160	0.062	**
大卒	0.330	0.042	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.051	0.054	
フィリピン	-0.310	0.051	***
タイ	0.618	0.104	***
インドネシア	-0.150	0.147	
ベトナム	0.052	0.183	
イギリス	0.242	0.108	**
アメリカ	-0.064	0.062	
ブラジル	-0.924	0.046	***
ペルー	-0.121	0.101	
定数	-0.629	0.051	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.064		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.086		
-2対数尤度	24912.212		
LRカイ2乗	1262.972		
N	18988		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 10-4 モデル 5'に関する分析結果、中部地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、40～59歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.273	0.038	***
年齢<40～44歳>			
45～49歳	-0.153	0.042	***
50～54歳	-0.354	0.053	***
55～59歳	-0.520	0.069	***
居住年数<1年未満>	-0.024	0.039	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.359	0.050	***
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.088	0.054	
夫婦と子供の世帯	-0.156	0.048	***
片親と子供の世帯	-0.202	0.096	**
夫婦と親の世帯	0.342	0.118	***
夫婦と子供と親の世帯	0.159	0.134	
その他の世帯	0.160	0.064	**
学歴<中卒>			
高卒	0.139	0.043	***
短大卒	-0.073	0.073	
大卒	-0.436	0.051	***
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.377	0.077	***
フィリピン	0.576	0.056	***
タイ	-0.204	0.130	
インドネシア	0.011	0.177	
ベトナム	-0.034	0.219	
イギリス	-0.377	0.172	**
アメリカ	-0.121	0.091	
ブラジル	1.345	0.047	***
ペルー	0.515	0.109	***
定数	-0.860	0.058	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.107		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.157		
-2対数尤度	19788.634		
LRカイ2乗	2153.956		
N	18988		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
 < >はリファレンス・グループを表している。

表 10-5 モデル 5'に関する分析結果、近畿地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、40～59歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.014	0.047	
年齢<40～44歳>			
45～49歳	-0.012	0.052	
50～54歳	0.165	0.062	***
55～59歳	0.179	0.078	**
居住年数<1年未満>	-0.125	0.047	***
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.031	0.058	
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	0.059	0.066	
夫婦と子供の世帯	0.081	0.059	
片親と子供の世帯	0.272	0.114	**
夫婦と親の世帯	-0.372	0.176	**
夫婦と子供と親の世帯	0.213	0.159	
その他の世帯	-0.221	0.089	**
学歴<中卒>			
高卒	-0.113	0.057	**
短大卒	0.011	0.090	
大卒	0.054	0.060	
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.087	0.076	
フィリピン	-0.314	0.082	***
タイ	-0.112	0.156	
インドネシア	0.548	0.181	***
ベトナム	0.295	0.247	
イギリス	-0.183	0.158	
アメリカ	-0.135	0.091	
ブラジル	0.141	0.062	**
ペルー	0.210	0.137	
定数	-1.859	0.073	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.005		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.010		
-2対数尤度	14828.851		
LRカイ2乗	103.058		
N	18988		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
< >はリファレンス・グループを表している。

表 10-6 モデル 5'に関する分析結果、中国地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、40～59歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.083	0.084	
年齢<40～44歳>			
45～49歳	-0.112	0.094	
50～54歳	-0.200	0.119	*
55～59歳	-0.263	0.152	*
居住年数<1年未満>	-0.030	0.085	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.213	0.113	*
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.449	0.118	***
夫婦と子供の世帯	-0.746	0.112	***
片親と子供の世帯	-0.529	0.223	**
夫婦と親の世帯	-0.580	0.279	**
夫婦と子供と親の世帯	0.125	0.238	
その他の世帯	-0.743	0.163	***
学歴<中卒>			
高卒	0.053	0.096	
短大卒	-0.329	0.183	*
大卒	-0.123	0.111	
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.262	0.166	
フィリピン	0.272	0.121	**
タイ	-1.032	0.416	**
インドネシア	0.072	0.368	
ベトナム	0.268	0.424	
イギリス	-0.250	0.331	
アメリカ	-0.203	0.190	
ブラジル	0.313	0.108	***
ペルー	-0.136	0.302	
定数	-2.802	0.123	***
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.006		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.023		
-2対数尤度	5831.864		
LRカイ2乗	116.929		
N	18988		

注 \*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。  
< >はリファレンス・グループを表している。

表 10-7 モデル 5'に関する分析結果、四国地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、40～59歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	-0.084	0.123	
年齢<40～44歳>			
45～49歳	0.053	0.137	
50～54歳	-0.236	0.190	
55～59歳	0.231	0.200	
居住年数<1年未満>	0.242	0.129	*
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	-0.221	0.183	
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.919	0.179	****
夫婦と子供の世帯	-1.246	0.178	****
片親と子供の世帯	-0.651	0.313	**
夫婦と親の世帯	-1.208	0.482	**
夫婦と子供と親の世帯	-1.084	0.532	**
その他の世帯	-1.343	0.270	****
学歴<中卒>			
高卒	-0.154	0.141	
短大卒	-0.021	0.217	
大卒	-0.645	0.164	****
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	-0.754	0.293	**
フィリピン	0.646	0.145	****
タイ	-2.293	1.005	**
インドネシア	-0.060	0.515	
ベトナム	-1.040	1.009	
イギリス	0.119	0.428	
アメリカ	0.005	0.266	
ブラジル	-1.265	0.224	****
ペルー	-0.240	0.394	
定数	-3.134	0.168	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.012		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.078		
-2対数尤度	2976.978		
LRカイ2乗	230.131		
N	18988		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。

表 10-8 モデル 5'に関する分析結果、九州地域への移動の有無、5年以内に海外から移動し国内に居住、40～59歳

	係数	標準誤差	有意性
性別<女性>	0.153	0.079	*
年齢<40～44歳>			
45～49歳	-0.128	0.085	
50～54歳	-0.010	0.105	
55～59歳	0.164	0.128	
居住年数<1年未満>	-0.036	0.076	
日本人親族がいる<日本人親族がいない>	0.400	0.090	****
世帯類型<単身世帯>			
夫婦のみの世帯	-0.313	0.111	****
夫婦と子供の世帯	-0.347	0.101	****
片親と子供の世帯	-0.067	0.205	
夫婦と親の世帯	-0.427	0.232	****
夫婦と子供と親の世帯	-0.186	0.240	
その他の世帯	-0.531	0.153	****
学歴<中卒>			
高卒	0.085	0.096	
短大卒	-0.083	0.146	
大卒	-0.051	0.097	
国籍<中国>			
韓国・朝鮮	0.059	0.112	
フィリピン	-0.291	0.120	**
タイ	-0.353	0.247	
インドネシア	-0.556	0.389	
ベトナム	0.112	0.369	
イギリス	0.064	0.209	
アメリカ	0.415	0.114	****
ブラジル	-2.625	0.258	****
ペルー	-1.565	0.454	****
定数	-2.723	0.114	****
Cox&Snell R <sup>2</sup>	0.020		
Nagelkerke R <sup>2</sup>	0.064		
-2対数尤度	6860.373		
LRカイ2乗	390.780		
N	18988		

注 \*\*\*\*...1%有意、\*\*...5%有意、\*...10%有意を示している。

< >はリファレンス・グループを表している。